

秋も深まり、読書にふさわしい季節がやってきた。慣れ親しんだ紙の本に加え、より手軽に楽しめる電子書籍にも注目が集まる。札幌市中央図書館は10月27日から、道内初となる電子書籍の貸し出しを開始。道内の出版社も電子書籍化した自社本の販売に力を入れる。「電子書籍元年」といわれた2010年から4年。内容も充実しつつある電子書籍のいまを紹介する。

(須田幹生)

# 電子書籍

## 手軽に読書 注目度アップ



図書館に行かなくても本を楽しめる電子書籍の貸し出しサービス

出版側の動きも活発になってきた。札幌など地方拠点の出版社は、自社出版物のPRや流通に制約を抱えるため、電子書籍に積極的に取り組む。

道内での先導役が一般社団法人北海道デジタル出版推進協会だ。中小出版社や研究者ら19団体・個

「見て見て、雪が降ってるよ。」

6日午前、中央区の主婦一方井優樹さん(39)と長男颯真ちゃん(3)が札幌市中央図書館(中央区)内の電子書籍閲覧コーナーでタブレット端末に見入っていた。絵本おぼけのメールとすてきなまち。クリックするとページがめくられ、ナレーションとともに登場人物が動く。「一方井さんは「持ち運びしやすいので病院の待ち時間にいいかもしれません」と話した。

同館が始めた電子書籍貸し出しサービスでは最初の1週間で2214人が延べ5734点を利用。「せいぜい数百点」と同館の予想をはるかに上回った。上位10のうち、絵本などの児童書が7点を占めた。同館は、育児中の親が児童書をスマートフォンで子どもに見せるなど、普段図書館に足を運ぶにくい層が利用を底上げしたと分析。渡辺孝之利用サービス課長は「電子書籍を閲覧したいと新たに貸出券を作る人もいた。現在利用できるのは約2900点だが、今後充実させたい」と意気込む。

同館の電子書籍は札幌市民が札幌市内への通勤・通学者が利用でき、貸出券のほかパスワード設定が必要。タブレット端末などでネット接続できれば1回最大3点を24時間利用できる。

## 札幌市中央図書館 貸し出し早くも5千点以上



アマゾンジャパンが販売を始めた国会図書館所蔵の古典。歌川広重の浮世絵も鮮明な画像で鑑賞できる。

歌川広重の浮世絵や滝沢馬琴の「南総里見八犬伝」などの古典を電子書籍リーダーやスマホなどで鮮明な画像で見ることが出来る。価格は1タイトル100円で、年内に千点以上を利用可能にする予定。同社は「貴重な文化遺産である古典に親しみ、深く理解してもらうきっかけになれば」と話している。

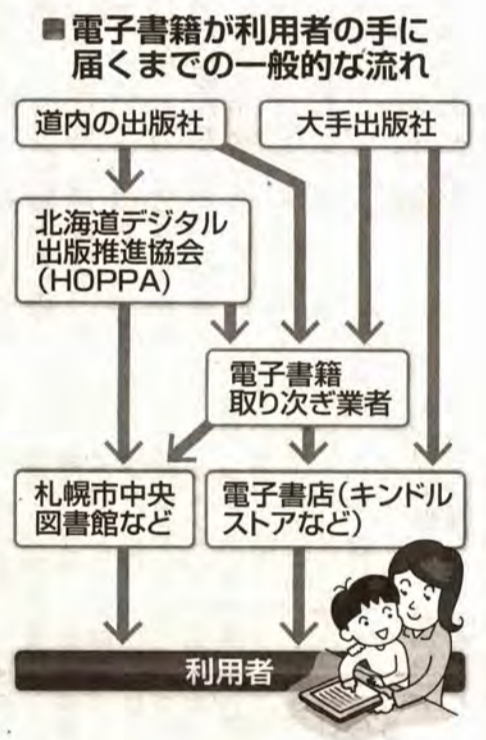
紙の本の電子書籍化には①著者の許諾を得る②印刷用データに電子書籍の国際規格データに変換③取次業者を通して電子書店で販売という流れになるが、中小出版社はそのノウハウに乏しい。翻訳書や小説などを手掛ける柏船舎(札幌)は同協会に設立当初から

加入。同社の可知佳恵営業部長は「煩雑な作業を一任でき、道外読者へのPRにも効果がある」と期待する。

中西出版(札幌)の社長で、同協会代表理事の林下英二さんは「地理的な制約のない電子書籍は地方出版社の生き残る手段の一つとして有望だ」と強調する。

電子書籍は既に約50万点が流通しているが、内容の幅は日進月歩で広がっている。アマゾンジャパン(東京)は、国立国会図書館の所蔵本で同館が電子化したものうち、著作権の保護期間が過ぎた浮世絵や小説などの古典を書籍化。先月29日、同社の電子書籍サイト「キンドルストア」で販売を始めた。

## 道内 出版社が推進協設立 アマゾン 浮世絵や古典小説も



## 新たな読者層掘り起こし

日本文芸家協会理事  
永江 朗さん

電子書籍の現状と可能性について、日本の出版業界の現状に詳しいライターで、日本文芸家協会理事の永江朗さん(旭川出身)に聞いた。

日本の電子書籍市場は2013年に1千億円を突破したが、紙媒体の

売り上げ1兆6千億円からみると6%余りの規模にすぎない。米国の約20%に比べると、日本は普及途上にある。

米国で普及した理由は、①価格が紙媒体の約3分の1と安い②タイトル数が100万点と豊富③新刊の電子書籍化が多い一の三つ。日



本では価格がそこまで安くはないし、タイトル数も米国の半分ほど。新刊が電子書籍になるまでのタイムラグもあり、課題が多い。

しかし、電子書籍に消極的だった日本の出版社の姿勢も変化してきた。集英社は9月下旬、週刊マンガ誌で紙媒体と電子書籍を同時に販売。また、講談社は来年1月から女性ファッション誌の購入者に、電子版も付けるサービスを始める。いずれも保存スペースを取らない電子版のメリットを生かしたものだ。

紙媒体が今後ゼロになることはないだろうが、大きな成長は見込めない。紙媒体のシェア低下を恐れていた出版社側も、電子書籍に大きな可能性を見ている。

紙か電子か。そうした二元論で論じられがちだが、私は違うと思う。電子書籍は出版社の裁量で値段を決められるため、作品の一部を無料配信するなど工夫できる。電子書籍で興味を持った読者が紙媒体の本を手取る可能性もあり、新たな読者層の掘り起こしにもつながるだろう。